Topics

日本海区水産研究所の出前授業・出前講義について

関根信太郎（業務推進部・業務推進課）

【はじめに】

日本海区水産研究所では，日本海の生物や環境，水産業，研究所で行っている研究開発などについて，地域の皆様にご理解いただくことなどを目的に，小中学校をはじめ，高校，大学，漁業者や市民の皆さんの勉強会，各種イベントなどで，出前授業・出前講義（以下，出前授業等）という取り組みを行っています。

今回は，平成24年度から26年度までの3年間に行った出前授業等について，紹介します。

【出前授業等とは】

出前授業とは，先生方のリクエストに応えて研究所の職員が学校に出向き，授業を行うことです。教育用語では「ゲスト・ティーチャー」と言い，先生方が行う授業を補完したり，通常の授業ではできない体験学習や専門家としての知識を生かした授業を行います。

出前講義とは，公共団体や漁業者，地域の集まり，イベントなどに呼んでいただき，主に研究所で行っている研究内容や成果，日本海の水産業や環境などについてお話しすることです。どちらも社会貢献や普及・広報活動の一環として，研究所が費用を負担しています。

【どんなお話をしてきたか】

当研究所では，平成24年度から出前授業等に積極的に取り組んでいます。研究者が講義可能な具体的テーマをいくつか提示し，新潟市内の小学校を中心として資料配付などの広報活動を行った結果，平成26年末までに30件の申込をいただき，2,000人以上の方にお話ししました（図1）。

要望をいただいたテーマの中で，最も多かったのは「つくる漁業」，次いで「魚を守りながらとる」でした。小学５年生の社会科では「日本の水産業」について学びますが，水産業が盛んな新潟県といえども，生徒さん，先生方ともに，普段の生活の中では水産業との関わりが薄くなっているようです。そこで，研究者が実際に体験した具体例を詳しく説明し，ビデオなど目に見える題材も利用して，できるだけ感覚的に理解できるよう工夫しました。時期によっては，「つくる漁業」で実際に放流されているヒラメの稚魚を小学校に生きたまま持ち込み，触っていただく体験学習も行いました（図2）。

図１　出前授業のようす

図２　教材のヒラメを夢中になってさわる子どもたち

第3位は「サケの一生」と「私が研究者になったわけ」が同率でした。新潟県は世界で初めてサケの増殖を行った，独特の鮭食文化を持つ地域であり，小学４年生の総合学習でサケを卵から育て，放流するという取り組みが多くの自治体で行われています。サケの生活史やふ化放流事業，サケが育つ川や海の環境などについてお話しすることで，その意義や，稚魚の育て方を知る手助けになったのではないでしょうか（図3）。「私が研究者になったわけ」では，自然科学とはどのようなものか，なぜ研究者の道を選んだのか，水産研究所ではどんな研究を行っているのかなどを小学生，高校生，大学生を対象としてお話ししました。将来の進路を考える上で，多少なりともお役に立てることを願っています。授業の後，生徒の皆さんに感想文を書いていただくことも多く，素直な感想や，新しく得た知識に感動したことなどを読むと，とても励みになります。

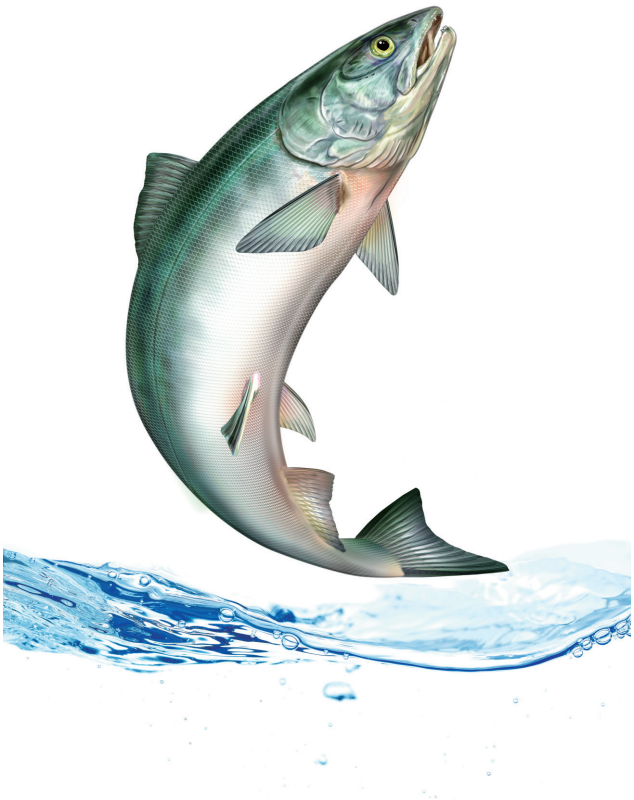
その他にご要望いただいたテーマには，日本海の環境や生物に関すること，研究者が行っている具体的な研究内容に関することなどがありました。

図３　サケにまつわるイベントで行った出前講義

【次の世代のために】

出前授業等の目的のひとつとして，次世代育成支援があります。近年，嗜好や生活様式の変化によって，日本人の伝統的な魚食の習慣が薄れるようになり，同時に漁業者になろうとする若い人も減少しています。また，学生・生徒さんの理科離れが進んでいると言われますが，昨今の研究不正などの発生により，さらに理系の研究開発を志す若い人たちの減少が心配されます。

当研究所の出前授業等が，将来，漁業者や理系研究者を目指す方々の増加に，少しでも貢献できることを願って，今後も分かりやすく，楽しく，ためになるお話ができるよう，頑張ります。

【おわりに】

出前授業等については，当研究所のホームページ（http://jsnfri.fra.affrc.go.jp/demae/）で詳しくご紹介しています。ホームページからお申し込みいただくこともできますので，ご興味がある方は，ぜひご覧になってみてください。